社団法人　日本助産師会

第６号

宮城県支部だより

ごあいさつ　　副支部長　戸村　たまよ

１、支部総会のお知らせ　**ー重要ー**

２、各女連総会参加者募集　３、支援センターだより

４、講習会報告　　５、「国際助産師の日」報告

６、会員寄稿

- スズキ病院附属助産学校
- 東北大学医療技術短期大学部専攻科
  助産学特別専攻

平成１５年５月発行

ご　あ　い　さ　つ

副支部長　戸村　たまよ

宮城県助産師会の皆々様お元気でそれぞれの職場で楽しくお働きのことと存じます。

私は、昔に働いたことを思い出しながら元気に１日１日大事に過ごしています。

顧みますと、昭和２６年に保健所に助産婦として入所し、泉市役所、新生児訪問指導、赤ちゃんホットダイヤル等と５０有余年、皆様の御協力を受けながら母子保健指導の職務を一筋に子育て支援に従事する事ができました。

時々町に出ると、新生児訪問した当時の母親から声をかけられ、子供の成長を知らされ、子育てに悩んだことが昨日のことのように思い出され、感謝の気持ちを伝えられた時、自分の働きかけが子育て支援に役立っていたことが指導冥利につき、感無量になります。

昭和３０年代頃、初めて宮城県助産婦会総会に出席した時、大広間に溢れるほどの会員が参加し大盛況だったこと が思い出されます。

その当時、助産婦会長であった、五十嵐様の挨拶の時、黒紋付の着物姿で堂々と挨拶されていました。来客には知名人が参加していました。また会員の中にも和服姿が見られ、和気あいあいと親交を深められたことが心深く脳裏にあり、懐かしく忘れられません。

昭和３１年頃会員の数は８１０人いましたが、年々減少し、平成１４年には１３９人に減少してきました。寂しい限りです。

時代の流れにより、住民が身近な分娩をと考える人が増え、助産所等の開設が増えつつあります。個に応じた細やかな対応が求められているように思います。

これからは一人一人の実績が評価される時代です。時代の流れを先取りし皆々様の働きによりますます発展されることを願い、ご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

1. 支部総会のお知らせ

重要 **第74回　宮城県支部総会**

日時：平成15年6月28日（土）10時～

会場：ハーネル仙台　かえでの間

お誘いあわせの上、ご参加ください。

ハーネル仙台　仙台市青葉区本町２－１２－７
電話　０２２－２２２－１１２１

プログラム

１０時１５分～１２時　基調講演
講師　仙台光明養護学校　教頭　櫻田博　先生
「養護学校の子達から聞こえてくるもの」（仮題）

１３時～１５時　支部総会　　役員改選

＊ 役員改選について、自薦他薦を問わず適任と思われる方を、支部長へ６月６日まで連絡ご推薦ください。

＊ ご欠席の方は、同封の委任状を６月２０日までに支部長または、みやぎ子育て女性健康支援センターへお届けください。

2、宮城県各種女連　総会参加者募集

日時：６月５日１３時半～
会場：勾当台会館

宮城県各種女性団体連絡協議会は、宮城に初めて女性議員が誕生したことを記念して設立された会で、現在は、宮城県環境生活部男女共同参画推進課に事務局が置かれ、長く当会も加盟しております。今年は機関紙発行の担当です。

参加できるかたは、支部長までご連絡ください。

3、支援センターだより　「会計を担当して」

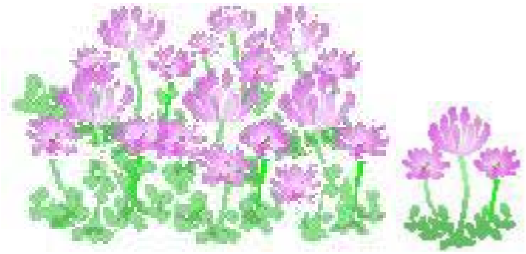
支援センターも開設から早一年が経過しようとしています。開設準備から関わらせていただき、アンケート、研究等事務局のお手伝いをさせていただきました。開設時からセンターの会計を阿部美由紀さんとの２人体制で行い、初めての会計という大役を無事終了できたことは、大きな力となりました。

電話相談員としては、どのような対応をすればよいか悩む所でしたが、他の相談員の記録を拝見することにより、こんなケースにはこのような対応をしていけばよい、と自分の力になりました。当番の時はブースに 1 人だけでしたが、多くの相談員の方々と共に活動しているという思いでいっぱいでした。

一つ一つの相談のケースが自分自身の知識、対応を試す場となり、自己研鑽の重要性を感じました。また相談を受けることにより、自分の領域が広がった感があります。

会計としては、皆様の御協力のもと、平成 14 年度社会福祉、医療事業団助成金の会計報告も終了し、ホッとしている所でもあります。平成 14 年度には、青木喜美代様、石川初枝様、大沼恭子様、小山みね子様、笠松愛子様、佐藤愛様、田村雪子様、松木キネ様、松田美由紀様、加藤と多くの方から御寄付を頂戴し、その寄付金の一部で今年度の支援センターのパンフレットを作成することが出来ました。紙面を借りて御報告し、お礼申し上げます。

現在、相談員は全くのボランティアとして活動しておりますが、交通費だけでも捻出できないかと皆様のお知恵を拝借したいと考えている所であります。今後共よろしくお願いいたします。　　（支援センター会計　加藤）



4、第１回思春期・更年期保健研修会報告

石川初枝性教育指導部長のもと、４月１３日開催、２９名の参加があり、盛会でした。日曜ということもあり、これまで参加できなかった勤務の方達も足を運んでくださり、新たに支援センター協力員として登録してくださる方もおられました。

支援センターの講師派遣事業を、活発に行って行くため、講演の質向上・均一化にむけ、今後定期的に学習会を開催していくことになりました。原則として、偶数月の第２、日曜日の１０時～サポートセンターにて。随時ご案内いた

しますので、ぜひご参加ください。

パワーポイントで使える宮城県支部独自の説明資料スライドも作成しました。手書きのかわいいイラストが自慢です。CD・ＲＯＭを各一枚１０００円でおわけしています。更年期用と思春期用があります。ご活用ください。

スライドのイラストより引用

第２回思春期・更年期保健研修会

日時：平成１５年６月８日（日）１０時～１２時

会場：サポートセンター　第３研修室

参加費：５００円　詳細は、同封別紙参照してください。

今後、偶数月の第２日曜日に、定期的に開催していく計画です。どうぞ、ご参加ください。

５、「国際助産師の日」報告

赤いテントとピエロ登場で、お祭り気分、大盛り上がり！　助産師ＰＲはバッチリ

５月３日土曜日、仙台市民広場で国際助産師の日記念イベントを行いました。

今年は例年と趣向を変え屋外での開催としました。当日は見事な五月晴れでとても暖かく、本当にイベント日和でした。

テントや横断幕の準備を始めたころにはまばらだった人影も、この日のために用意した“助産師風船”を配りだすと徐々に集まりはじめました。『ケンちゃん風船マジックショー』には、ベビーカーを押した家族連れ、通りがかりの人たちにたくさんおいでいただきました。ショーが終わっても風船で動物や剣を作ってもらう人の列ができるほどの盛況ぶりでした。

また、集まっていただいた皆さまには、赤ちゃん人形の抱っこ体験や妊婦の疑似体験もできるコーナーも設け、体験していただきました。同時に支援センターのパンフッレト、STD の小冊子なども配布しました。

はじめての試みでしたが、「また来年もやって下さい」などと声をかけていただきました。

屋外でのイベントは天気もよかったので気持ちがよく、通りがかりのかたが寄ってくださるという点で助産師の PR には良かったのではないかと考えます。

当日お手伝いいただいた会員の皆さま御協力ありがとうございました。　（保健指導部長　松田）

６、会員寄稿

こんにちは　スズキ病院附属助産学校です

スズキ病院附属助産学校　教務長　成田　容子

本校は県内３番目の助産師学校として平成４年に開校しました。今年で早いもので１２回生を迎えます。定員は３０名です。卒業生も２００数十名を越え全国各地で活躍しています。

設置母体のスズキ病院は、周知のように不妊症治療専門病院です。そのため本校のカリキュラムには、『不妊症論』を取り入れ講義だけでなく実習にも力を入れているという特色があります。また卒業時に生殖医療に関する生命倫理についてディベートを行い理解を深めています。実習後、学生はあらためて生命の尊さや神秘さ、妊娠することの大

変さを痛感しています。学生の言葉として、「今まで妊娠するのはごく自然で簡単なことだと思っていた。でもそうではなくて、妊娠するまでに本当に大変なプロセスがある。生命ってすごい。これからは、妊婦さんに会った時に今までとは違う観点、視点で接することができるように思う。」というのが印象的です。

最近の学生の傾向としては、純粋でまじめな人が多いように思います。色々なことを吸収でき熱心なところは良いところですが、反面自主性や、創造性が不足しているように思います。一人一人の学生の特性をよく考えながら関わっていく必要が今まで以上にあるように感じます。日頃、心がけていることは、自分で学んでいくことに楽しさを感じられるように支援することです。ハードなスケジュールの中で行詰ってしまう学生も多いです。そういう時こそ、「なるほどそういうことか」と自分で勉強したことが実証でき、満足感があると、学ぶことにおもしろさを感じ次に進んでいけるように思います。

さらに、対象者を大切にすることも大事にしていることです。本校の教育方針に「助産の対象を全人的に把握し、限りなく慈しみの心を持ち援助の手をさしのべられることのできる人材を育成する。」とあります。対象者にとって私たちのケアがどういう意味を持つのか、対象者の思いはどうなのか、本当にこのケアでよいのかなど、自分で考え行動し、慈しみの心を持って関わってほしいと思っています。最近の受験生の出願動機の中に、助産師として勤務している本校の卒業生の姿に感銘を受けたという人が増えてきているように思います。具体的には「産婦さんのことをとても思いやってケアしているところ」と記している人が多いです。それを読むと活躍している卒業生の顔が目に浮かび、懐かしいのと同時に私たちが育成したい助産師に育ってくれていることにうれしさを感じます。また、日頃心がけていることが間違っていなかったと少し自負しています。

学生の頃から、助産師としての視野が広げられると良いと思います。その一環として、開業助産師さんの講義や助産所での実習を行っています。生き生きと活躍されている助産師さんのお話を伺うと、学生は助産師にさらに魅力を感じるようです。「分娩介助だけでなくこういう活動が助産師はできるんだ。助産師だからこそできることってたくさんある。ああこういう助産師に私もなりたい」など、助産師活動に対する視野が広がったり、理想とする助産師さんに巡り会えた喜びを感じる学生がほとんどです。そして開業助産師さんからパワフルなエネルギーをいただけることが学生にとって何よりの収穫だと思います。それまでシュンとしていた学生が、生き生きとしてきてこれからも頑張っていこうという気持ちが強くなるように感じられます。

日頃学生と関わっている中で感じていることを主に記してきましたが、社会のニーズに即した助産師を育成できるよう今後も努力していきたいと思います。

学校紹介

東北大学医療技術短期大学部　助教授　佐藤　喜根子

東北大学医療技術短期大学部専攻科助産学特別専攻という長い学科名をもつその母体は、大正 8 年 4 月の東北帝国大学医学部附属医院産婆養成所の開学に始まる。その後昭和 22 年東北大学医学部附属医院助産婦養成所と改称され、昭和 27 年に東北大学医学部附属助産婦学校となった。そして、昭和 54 年から現在の名称（現在 24 回生）に至っている。時代の要請に応じてその時々に、最先端の学問と技術を教育しつづけてきた。その間の産婆・助産婦卒業生は約 2，000 名にのぼる。ナイチンゲール国際賞を受賞された山田タフ先生や、ICM 神戸大会の招聘にご尽力された勝島喜美先生などが、後輩の助産婦育成に果たされたご尽力は大きい。現在学生の定数は 20 名。最近は受験数も微増の傾向にある。学生も全国から集まり、全国に散らばる。希望する学生には、1 年間に助産師国家試験の受験資格の他に、看護学士の取得のための支援も行っている。概ね取得出来ているが、そのための努力は大変である。おかげで、教官は鬼に見えてくるらしい。穏やかな笑顔で接しているつもりであるのだが…。

助産師を取り巻く状況もめまぐるしい。助産婦の名称も今年 3 月からは助産師となり、教育も看護大学が 100 校となり、うち 65 校で助産が選択となった。遅れ馳せながら我が校でも、平成 15 年に認可となり、助産も選択制となる見通しである。将来を見据え、助産師の量と質の確保が課せられている時に、大学での選択となると、先行大学の実情をみれば、量的保障が無い状況である。その様な中

で、最低でも現状維持を行いたいと考えているところである。ゆとり教育が叫ばれる昨今、大学教育の中での助産師教育はそれを逆行していると不安も募る。

今年 3 月に、看護教育のあり方を考えようと、文科省が“大学における看護実践能力の育成の充実に向けて”を発表した。基礎となる看護技術等が低下しているとの反省である。その看護学をベースとして教育体系が組み立てられている助産学もまた、大きな問題を抱え込む。入学時は全てが助産師を希望しているわけではなく、社会に出る事が不安だからという理由もある。しかし、1 年間の助産学を学ぶ中で、「命」と対峙し、その誕生に立ち会うことのすばらしさを肌で感じ、感謝されることで、自身の力と自然の摂理のすばらしさを信じ、自信がつく。卒業時は確実に助産師としての職場を求めるようになる。これまで一人の脱落者もいないことが自慢でもある。教育本来の実践ではないかと嬉しく思っているところである。特に実習現場での学びはすごい！学生は実習に出た後から、目が輝き将来像を語るようになる。現場は魔術をもった所であるらしい。その意味で、臨地と教育現場の密接な連携が不可欠である。このすばらしい職業を、これからも何とか多くの学生に伝えていきたいと考えている。

助産師会は職能集団として、羅針盤となっていただいていると考えている。これからも諸先輩方が“どのような活躍をなさっておられるのか、そしてどう評価されているのか？”“最新の動きは何か？”“助産師を取り巻く問題点は何か？”等タイムリーに情報を発信していただけることを希望したい。教育現場は即座に学生に情報を伝達し、共有していくことで、より良い助産活動が可能になると思うからである。そして女性の健康にいかに寄与していくことが出来るのか？その方法を学ぶ事で、より助産師業務を拡大し、創造性のある職業であることを実感させたいと思っている。

社会状況が複雑化している中で、対象者のﾆｰｽﾞを常にアンテナを高くし、その要請に答えられるような助産師の教育を目指していきたいと考えている。

★★編集後記★★

泉地区では、４月１９日に、地区総会を兼ねた観桜会が、戸村地区長のもとに行われました。お寿司をつまみながらの交流会で調度見頃の満開の桜で、おしゃべりも弾みました。皆さんの地区でも交流会はいかがですか？話題をお寄せください。（伊藤）

学習会のご案内

母親と歯科医、助産師による

「母乳と歯の話」

日時　平成 15 年 6 月１５日（日）

１３時半～１５時半

主催　Ｍ＆Ｍネットワーク＆Ｐ

講師　青葉こどもと親の歯科医院　青葉達男先生

会場　宮城県歯科医師会館（旧徳陽銀行本店）

対象　母乳育児と子供の歯に関心のある方

参加費　１人または、カップルで８００円

申込　伊藤　TEL　０２２－７７２－５９６０

笠松　TEL　０２２－３６８－１８６０

すくすく子育て研究会第９回研修会

日時　平成 15 年 6 月 22 日（日）

１0 時半～12 時半　　参加費　無料

「健やか親子２１」推進協議会参加記念講演

テーマ　　子どもの発達

講師　日本小児保健協会長　前川喜平先生

会場　仙台市情報・産業プラザ

アエル６階セミナーホール

（仙台駅より歩いて２分です）

問い合わせ　　青木　喜美代

TEL　０２２―２２９－５０７７

****

支部だよりについての問合せ・投稿先***

〒９８１－３１３１　仙台市泉区七北田字東裏４６－１（伊藤）

TEL　０２２－７７２－５９６０

Fax　０２２－７７２－５９６１

****

****

**社団法人　日本助産師会　宮城県支部　**

〒９８５－０８２２　宮城郡七ヶ浜町汐見台南１丁目１－５

支部長　新田　双葉

TEL　Fax　０２２－３５７－６５６２

****